

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス 北風と太陽 刈谷中央 (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 4日		2026年 2月 4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2026年 1月 4日		2026年 2月 4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お休みの日のレクで、いろいろな場所にお出かけに行き、集団活動の中で社会で生活していくためのスキルを積み重ね学んでいく機会が多い。	できるだけ子どもたちが行ったことのない場所にお出かけできるよう、事前に職員間でリサーチしたり、情報共有したりしてお出かけ場所を決めている。	広告やパンフレット、SNS等を活用して、お出かけ先がマンネリ化しないようにより職員間で意見を出し合い、模索していく。
2	作業療法士が常駐しており、日々児童1人ひとりに合わせた個別課題に取り組んでいる。 (SST、指先を使った作業、ADL、運動療育、集団でのルールなど)	個々の発達、特性に合わせて、個別課題を作り、無理なく楽しめる課題を児童と一緒に選択し提供。得意分野は伸ばし、自己肯定感を上げ、できた喜びを共有、共感する事を心がけている。	保護者様との連携を大切にし、面談時に現在の取り組みや課題内容の話、今後の課題方針を一緒に決める。社内研修以外にも積極的に外部研修を行い、能力の向上に努めている。
3	事業所の3階の広いフリースペースを使うことで、充実したレクリエーションが行える。	レクリエーションの内容によって、職員の配置を工夫して行うことで、児童全員が楽しんでレクリエーションに参加できるようにしている。 (進行する人、複数人の子どもと遊ぶ人、一対一で個別に関わる人、等)	時折集団に入りにくい子へのフォローが手薄になることがあるので、場を盛り上げることはもちろん、全員に手厚く支援をするために人員を増やす等の工夫をする。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	メインのフロアが2部屋しかない為、クールダウンをするための個室がなく、完全に遮断できる場所がない。	落ち着く場所を求めて部屋の一角を独占する児童が数人いる為、場所の確保が追いつかない。 賃貸物件のため、現状以上の設備工事等ができず環境を大幅に変えることは難しい。	物理的に区切られた場所を提供するのは難しいが、一緒にいて安心できる職員を増やすことで、少しでも落ち着いて過ごせる雰囲気、環境作りをしていく。
2	入り口に外階段がある為、日々の出入りの時や緊急時に避難する時に危険が伴う。	賃貸物件のため、現状以上の設備工事等ができず環境を大幅に変えることは難しい。	日頃から階段の上り下りをする際に、手すりを持って気をつけて降りることを子どもたちに伝えたり、階段の上下共に職員を必ず配置し、道路面での危険を減らせるようにする。 避難訓練は定期的に行い、不測の事態に備える。
3	高学年の男子児童が多く、パニックになったり気持ちが不安定になったりした時にフォローできる男性職員が少ない。	小学校高学年、中学生の男子児童が多く、力が強く女性職員では止められない場面もある。	常時いらなくても、他店舗から男性職員を定期的に応援要請する。 職員1人ひとりが子どもたちとの関係を深められるように、努力する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス 北風と太陽 刈谷中央 (児童発達支援)

公表日 2026年 2月 17日

利用児童数 2名

回収数 2名 100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	2					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	2					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	2					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1			1		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1			1		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	2					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		1		1		
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	2				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	2				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	2				
	29	事業所の支援に満足していますか。	2				

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス 北風と太陽 刈谷中央 (児童発達支援)		公表日	2026年 2月 27日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		高学年の児童が集中して勉強できるように、仕切られたスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	物の配置、環境設定を変えたときは子どもたちにも共有して、戸惑いがないように配慮している。	外階段が危ない。事業所の前の道を自転車がよく通るため、危険が常に予想される。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		勉強スペースだけでなく、遊びスペースもダイナミックに遊びたい子、静かに遊びたい子で仕切れるように、段ボールの衝立を活用している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	少ない部屋数ではあるが、その中で落ち着ける場所は用意出来ている。	視覚的には遮断できるが、完全に分けられている訳ではないため、周りと離れられる場所を作りたい。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	3		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		MT時、1人の職員が話すだけでなく、他の意見を聞く時間設けられている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		毎月のジョブメドレー、定期開催される自治体の研修等に積極的に参加している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		ミーティング等で翌月の活動内容を検討し、職員全体で意見をだしあって決定している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		毎日のレク担当を替えて固定化させないことで、いろいろな先生が発案したレクリエーションができるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7			支援後に行くと、勤務時間が長くなるため、急ぎの内容はLINEに残し、そうでない場合は朝のMTで共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			送迎の際に中々ゆっくり時間を取ることができない。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	4		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	5		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4			
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			家庭訪問を定期的に行ない、保護者さんとのコミュニケーションを大切にしている。 相談の内容によっては、事業所ではどうにもならないことがある為、内容に合わせて相談する機関の紹介を行えるようにしたい。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	4		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			全員が対応できるよう日々の関係作りを徹底していきたい。

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		月に1回の北風通信や、子どもたちの活動写真を送ったり、インスタの更新を行ったりしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		鍵のついた書庫で管理している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4		地域との接点がないため、今後検討していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		月に1回は避難訓練を実施するようにしている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			中々全て覚えておくことは出来ない為、月に一回確認する日を設ける。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリの重要性について職員で周知し、細かい事でも記録に残すようにしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		定期的に行われる外部研修に積極的に参加している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	1		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス 北風と太陽 刈谷中央 (放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 4日		2026年 2月 4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2026年 1月 4日		2026年 2月 4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お休みの日のレクで、いろいろな場所にお出かけに行き、集団活動の中で社会で生活していくためのスキルを積み重ねていく機会が多い。	できるだけ子どもたちが行ったことのない場所にお出かけできるよう、事前に職員間でリサーチしたり、情報共有したりしてお出かけ場所を決めている。	広告やパンフレット、SNS等を活用して、お出かけ先がマンネリ化しないようにより職員間で意見を出し合い、模索していく。
2	作業療法士が常駐しており、日々児童1人ひとりに合わせた個別課題に取り組んでいる。 (SST、指先を使った作業、ADL、運動療育、集団でのルールなど)	個々の発達、特性に合わせて、個別課題を作り、無理なく楽しめる課題を児童と一緒に選択し提供。得意分野は伸ばし、自己肯定感を上げ、できた喜びを共有、共感する事を心がけている。	保護者様との連携を大切にし、面談時に現在の取り組みや課題内容の話、今後の課題方針を一緒に決める。社内研修以外にも積極的に外部研修を行い、能力の向上に努めている。
3	事業所の3階の広いフリースペースを使うことで、充実したレクリエーションが行える。	レクリエーションの内容によって、職員の配置を工夫して行うことで、児童全員が楽しんでレクリエーションに参加できるようにしている。 (進行する人、複数人の子どもと遊ぶ人、一対一で個別に関わる人、等)	時折集団に入りにくい子へのフォローが手薄になることがあるので、場を盛り上げることはもちろん、全員に手厚く支援をするために人員を増やす等の工夫をする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	メインのフロアが2部屋しかない為、クールダウンをするための個室がなく、完全に遮断できる場所がない。	落ち着く場所を求めて部屋の一角を独占する児童が数人いる為、場所の確保が追いつかない。 賃貸物件のため、現状以上の設備工事等ができず環境を大幅に変えることは難しい。	勉強スペースを仕切りで区切れるようにすることで、独立したスペースを作って、クールダウンできる空間としても活用していく。
2	入り口に外階段がある為、日々の出入りの時や緊急時に避難する時に危険が伴う。	賃貸物件のため、現状以上の設備工事等ができず環境を大幅に変えることは難しい。	日頃から階段の上り下りをする際に、手すりを持って気をつけて降りることを子どもたちに伝えたり、階段の上下共に職員を必ず配置し、道路面での危険を減らせるようにする。 避難訓練は定期的に行い、不測の事態に備える。
3	高学年の男子児童が多く、パニックになったり気持ちが不安定になったりした時にフォローできる男性職員が少ない。	小学校高学年の児童、中学生の男子児童が多く、力が強く女性職員では止められない場面もある。	常時いらなくても、他店舗から男性職員を定期的に応援要請する。 職員1人ひとりが子どもたちとの関係を深められるように、努力する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス 北風と太陽 刈谷中央 (放デイ)

公表日 2026年2月27日

利用児童数 2026年2月21日 時点24名

回収数 20名 91.6%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	1				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	14		1	5		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	2		4	荷物置きやホワイトボードに名前だけでなく、写真も貼ってあって、子どもたちにも分かりやすくなっていると思う。	児童の過ごしやすさやわかりやすさを考慮した環境設定が行えるように留意していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18	1		1		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18			2		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	20					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16	1		3	「移行支援」の内容がいまいち分かりません。本人支援、家族支援は丁寧にして頂いています。	サービスガイドラインをHPに掲載するなどして、保護者の方が見て知ることができるように配慮していく。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18			2		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	7		2	11		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	20					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	3		7	夏祭りは一緒に参加しましたが、普段の事業所での様子を見てみたいです。(参観等)	事業所参観ができる機会を設け、普段の子どもたちの姿を保護者さんに見ていただけるように企画していきたい。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	19	1				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19			1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	7	5		8	まだ放デイを利用し始めて一年経ってないので、保護者会や兄妹同士の交流についてはよく分かっていないです。	保護者さんやきょうだいも参加できるイベントの開催を検討し、交流の場を設けられるように工夫していく。
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18			2			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19			1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19			1	毎月の北風通信や子どもの写真を送っていただくことで、どんな様子なのかを把握できています。	引き続き北風通信や児童の写真、SNS等を活用して、事業所での様子をわかりやすく発信していく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18		1	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	1		1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19			1	避難訓練を定期的に行っているのは知っています。マニュアルについてはよく分かりません。	避難場所やマニュアルについても、保護者さんに共有することで、もしもの時に即座に対応出来るよう備えておきたい。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17				3	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	1			3	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	19			1		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	19			1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	18	2				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス 北風と太陽 刈谷中央 (放デイ)		公表日		2026年 2月 27日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		限られたスペースながらも、2階と3階を上手く活用している。	勉強のスペース、区切られた空間をしっかりと確保したい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2	外階段にイルミネーションを設置して、暗い中視界の悪さで転倒しないように工夫されている。	外階段が危ない。雨が降ったときに屋根が欲しい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		2階は座って活動、3階では体を動かして活動できる空間になっている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	少ない部屋数ではあるが、その中で落ち着ける場所は用意出来ている。	視覚的には遮断できるが、完全に分けられている訳ではないため、周りと離れられる場所を作りたい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか。	6	1			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		毎月ジョブメドレーがある。新人研修などにも積極的に参加している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		毎日ホワイトボードに児童1人ひとりの支援のポイント (個別支援に該当する児童) が書いてあり、職員間でもしっかりと共有できている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		意見が偏ってしまう事がないように、全員で案を出し合っている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		前の月と活動が重複しないよう計画を立てることができている。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		支援後に行くと、勤務時間が長くなるため、急ぎの内容はLINEに残し、そうでない場合は朝のMTで共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			意思表示の苦手な児童への対応スキルをもっと身につけていきたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		情報を共有しやすくなるように、お迎えに行った際のコミュニケーションは大切にしている。	学校によっては協力的ではない所もある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	4		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	5		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	2		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		帰りの送迎時に今日あったこと、様子などできるだけ細かく共有して伝えるようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7			
保	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		送迎時に頂いたお話やご意見は、一度事業所に持ち帰り全職員に共有した後に保護者に伝えるようにしている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		なるべく手厚く対応したいが、他の業務もある為毎回保護者さんの話を聞きに行くことは難しい。	話を聞いて欲しい先生を指名する保護者さんもいる為、どの職員でも対応できるように、日々の関係作りを徹底していきたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		月に一度北風通信を作成し、週に1回はインスタグラムを更新して様子を見ていただけるよう工夫している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	1		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		避難訓練は固定化せず、地震、火災、水害、不審者など様々なレパートリーで行なうよう工夫している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		事業所内に該当の児童がいないと、知識が抜けてしまうことがある。	中々全て覚えておくことは出来ない為、月に一回確認する日を設ける。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		アレルギー持ちの児童が数名いるため、常に意識を持ちどの職員でも対応出来るよう確認に努めている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		日々事業所で起きたことは共有して、月に2回のミーティングでも再度確認して対策をしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		定期的に行われる外部研修に積極的に参加している。	今後もしっかりと研修を受けて、最新の制度や対応を学んでいく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	1			